

# 乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.69

2020.2

## 進化を続けるHER2陽性乳がんの治療

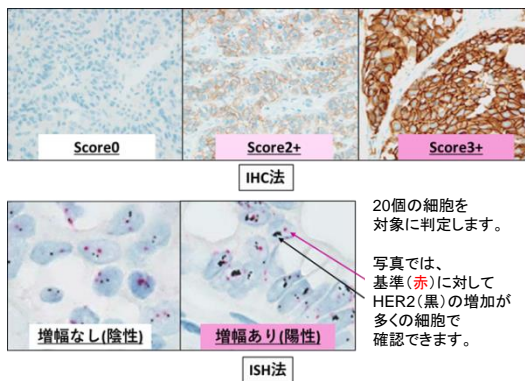
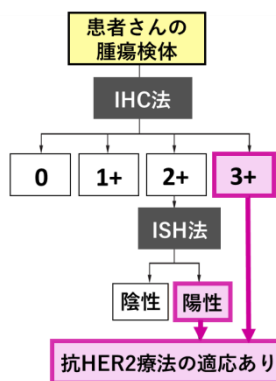


乳がんは、そのタイプによって術後の薬物療法や再発後の治療が大きく異なります。特に進歩が大きいのはHER2陽性乳がんですので、今回HER2陽性乳がんを主題にとりあげます。

### HER2陽性乳がんとは

HER2は細胞の増殖に関わる遺伝子で、乳がんの15-25%で、がん細胞表面にHER2タンパクが確認されます。このHER2が過剰発現するがんは、増殖速度が速いという特徴がある一方、HER2に対する分子標的治療\*の効果が期待できます。そのため、乳がん治療前の組織診(針生検)や手術標本におけるHER2の発現検査は治療方針の決定に重要です。検査は患者さんから採取された腫瘍を用いて、1つもしくは2つの検査を段階的に行います。1つはHER2のタンパク発現を調べるIHC法、もう一つは遺伝子の量を調べるISH法です。HER2タンパクが過剰の場合、IHC法では腫瘍細胞の細胞膜が茶色に染色されるため、染色範囲や染色強度で評価します。また、ISH法ではHER2遺伝子を黒色で検出し、比較対象(赤色)と比較して増幅しているかを判定します。

「IHC法で3+」または「IHC法で2+かつISH法で陽性」のがんが、「HER2陽性乳がん」と呼ばれ、抗HER2療法の対象となります。IHC法で過剰発現の境界域である2+と判定された場合には、ISH法で再検査を行います。



(図：ロシュ・ダイアグノスティック社HER2検査ガイドより、一部改変)

\*分子標的治療：がんの持つ特定の物質を標的にした治療で従来の抗がん剤に比べて正常組織への影響が少ないのが利点です。

### HER2陽性乳がんに対する治療

HER2陽性乳がんでは、抗HER2療法による乳がん術後の生存率の改善や再発後の生存期間の延長が報告されています。HER2陽性乳がんに対する術前あるいは術後の治療としては、ハーセプチン(一般名：トラスツズマブ)やパージェタ(一般名：ペルツズマブ)などの抗HER2薬+抗がん剤治療が一般的です。また、再発後のHER2陽性乳がんに対しては、これらの抗HER2薬以外にカドサイラ(一般名：トラスツズマブ エムタンシン)やタイケルブ(一般名：ラパチニブ)も使用されますし、さらに新たな抗HER2薬も開発中です。